

VA mintsチェック 操作マニュアル

Ver.100

作成者：影本賢治 配布元：VBAアセット（vba-assets.net）

2026年7月21日

目次

第1章 ツールの概要

- 1.1 これは何をするツールか
- 1.2 できること・できないこと
- 1.3 安全性に関する設計方針

第2章 導入方法

- 2.1 配布物の構成
- 2.2 起動方法
- 2.3 動作環境

第3章 基本的な使い方

- 3.1 フォルダ選択・スキャン
- 3.2 出力ファイル名の入力
- 3.3 書き出し前の確認画面
- 3.4 200MBを超える場合の扱い
- 3.5 完了時の確認とレポート

第4章 設定ファイル (config.yaml)

第5章 ソースコードとライセンス

第6章 免責事項

更新履歴

第1章 ツールの概要

1.1 これは何をするツールか

VA mintsチェックは、民事裁判書類電子提出システム「mints」の「記録」への提出前に、フォルダ単位でファイル群の内容を確認し、mintsの制約（用紙サイズ・ファイル名・パスワードの有無・証拠番号標記等）に適合しているかを一括してチェックするためのツールです。

このツールは、**チェック（検出・警告）に専念する**という設計方針を採っています。用紙サイズの補正やファイル形式の変換、OCRの付与といった「原本の中身を作り替える」機能はあえて実装していません。問題が見つかった場合は、Word・Excel・PDF編集ソフトなど普段お使いのアプリケーションで修正していただき、修正後のファイルを本ツールに再度読み込んで再検証する、という使い方を想定しています。

これは機能不足ではなく意図的な設計です。証拠として提出する文書は、内容の変更それ自体が証拠価値の評価に影響しかねません。「技術的に情報を失わない処理だから自動実行してよい」という判断は、本ツールでは採用していません。ファイルの中身を変える処理（証拠番号スタンプ、ファイル名整形、メタデータ除去、枝番ファイルの結合）は、実行前に必ず画面上で内容をご確認いただき、個別に許可を選択してから実行される仕組みになっています。

1.2 できること・できないこと

できること（検出・警告）

- ・フォルダ内の全ファイルのスキャンと状態把握（形式・サイズ・分類）
- ・単体ファイルの200MB超過検出（合計サイズとは別の重大警告）
- ・パスワード付きPDFの検出
- ・操作制限（印刷・コピー制限）PDFの検出
- ・用紙サイズ（A4／A3以外）・向きの不一致検出
- ・墨消し完全性の検証（黒塗り・マーカー下の文字情報の残存検出）
- ・号証の連番・欠番チェック
- ・個人情報らしきパターン（マイナンバー・電話番号・メールアドレス・住所・銀行口座・クレジットカード番号等）の検出

できること（ユーザー確認のうえで実行する処理）

- ・ファイル名整形（100文字以内への調整、禁止文字の除去）

- メタデータ除去（作成者情報、Exif位置情報等）
- 200MB単位でのバッチ分割（複数回提出のための事前仕分け。「提出用_01」等のサブフォルダを自動生成）
- 証拠番号（甲001等）の右上スタンプ（位置調整可能）
- 枝番ファイルの結合

できないこと（意図的に実装していない機能）

- ファイル形式の変換（DOCX/XLSX/PPTX→PDF、TIFF等→JPEG/PNG、動画・音声形式の変換）
- OCRによるテキストレイヤーの付与・削除
- 用紙サイズの自動補正（拡大縮小配置）
- 墨消し漏れの自動修復（検出・警告のみ）
- 無彩色画像のグレースケール変換
- ファイルの分割・圧縮によるサイズ削減

これらが必要な場合は、他の専用ソフトで対処したうえで、本ツールに再度読み込んで再検証してください。

1.3 安全性に関する設計方針

- **完全ローカル動作**：いかなる処理段階でも外部ネットワーク通信を行いません。クラウドAPI・外部OCRサービス・外部変換サービス・利用状況の送信・自動アップデート確認、いずれも実装していません。証拠・準備書面等の内容が、お使いのパソコンの外部に送信されることはありません。
- **生成AI（LLM等）を使用しない**：検出処理はすべて正規表現やライブラリによる機械的な判定であり、生成AIによる文字起こしや要約は行いません。
- **原本を書き換えない**：入力フォルダのファイルを直接上書きすることではなく、指定した出力フォルダへの書き出しのみを行います（入力フォルダと出力フォルダを同一に指定した場合は上書き確認が入ります）。

第2章 導入方法

2.1 配布物の構成

本ツールは、次のファイル一式で構成されています。

ファイル	内容
VA_mintsCheck.exe	実行ファイル本体（Python環境不要）
config.yaml	数値パラメータ等の設定ファイル（テキストエディタで編集可能）
LICENSE	ライセンス条文（MIT License）
マニュアル/	本マニュアル（PDF）
source/	ソースコード一式（Python。改変・再配布はライセンス条件の範囲内で自由）

2.2 起動方法

1. VA_mintsCheck.exe と config.yaml を、**同じフォルダ内**に置いてください（config.yamlは実行ファイルに内蔵されておらず、外部ファイルとして読み込む仕組みのため、必ず同じフォルダに置く必要があります）。
2. VA_mintsCheck.exe をダブルクリックして起動します。Python環境のインストールは不要です。
3. Windows Defender SmartScreen等により警告が表示される場合がありますが、これは未署名の実行ファイルに一般的に表示されるものです。内容にご不安がある場合は、source/ フォルダ内のソースコードをご確認いただくか、ご自身の環境でビルドし直してご利用ください。

2.3 動作環境

Windows環境を想定しています（法律事務所の一般的なPC環境に合わせています）。

第3章 基本的な使い方

3.1 フォルダ選択・スキャン

起動後、まず入力フォルダ（チェック対象のファイルが入っているフォルダ）と、出力フォルダ（処理結果を書き出す先）をそれぞれ選択します。サブフォルダを含めるかどうかを選択できます。

フォルダを選択すると、対象フォルダ内の全ファイルが自動的にスキャンされ、一覧表示されます。一覧には、ファイル名・形式・サイズ・分類（A～D）・検出事項（想定される処理内容）が表示されます。各行の左端にはチェックボックスがあり、その回の書き出し対象に含めるかどうかを個別に選べます（分類C「要変換」・分類D「対象外」の行は、そもそも書き出せないためチェック操作ができないグレー表示になります）。

3.2 出力ファイル名の入力

スキャン結果一覧の上で、各ファイルの提出用ファイル名を編集できます。「甲001」のような証拠番号の形式で入力すると、そのファイルは証拠番号処理（右上スタンプ・枝番結合等）の対象候補として扱われます。証拠番号の形式に合致しない場合（準備書面・証拠説明書等と推定される場合）は、証拠番号処理は既定で適用されません。

3.3 書き出し前の確認画面

「ファイルを書き出し」を実行すると、いくつかの確認画面を経て、実際の書き出しが行われます。

1. **出力フォルダの上書き確認**（該当する場合、最優先で表示）
2. **枝番ファイル結合の確認**（複数ファイルを1つの証拠として結合する場合、グループ単位でまとめて確認）
3. **ファイル別の逐次レビュー画面**：書き出し対象ファイルが1件ずつ画面に表示されます。画面右側にはプレビュー（PDFは1ページ目、画像はそのもの）、左側にはそのファイルに適用する処理（ファイル名整形・メタデータ除去・証拠番号スタンプ）のチェックボックスが表示されます。証拠番号スタンプのON/OFFに応じて、プレビューはその場で再生成されます。内容を確認のうえ、「この内容で書き出す」を選択すると次のファイルに進みます。「書き出しを中止」を選ぶと、以降の処理を打ち切ります（すでに書き出し済みのファイルはそのまま残ります）。

3.4 200MBを超える場合の扱い

合計サイズが200MB（既定の安全マージン90%=180MB）を超える場合、出力フォルダの直下に「提出用_01」「提出用_02」…という提出回ごとのサブフォルダが自動生成され、ファイルが振り分けられます。1バッチで収まる場合は、サブフォルダを作らず出力フォルダ直下にそのまま書き出されます。

なお、**単体で200MBを超えるファイル**が検出された場合は、複数回に分けても解決しない重大な警告として、別途強調表示されます（圧縮・分割の実行機能はないため、他のツールで対処してください）。

3.5 完了時の確認とレポート

書き出しが完了（または中止）すると、次の内容に該当する場合は画面上のダイアログで明示されます。

- 単体ファイル200MB超過
- 墨消し完全性の検証で文字情報の残存を検出した場合
- 個人情報らしきパターンを検出した場合
- パスワード付きPDF・操作制限PDF・用紙寸法不一致・向き不一致等、検出のみ行った要修正事項
- 号証の連番・欠番

該当がなければダイアログは表示されません。また、出力フォルダを直ちに開くかどうかを選択できます。

処理結果はテキスト形式のレポートとして出力フォルダに保存され、ファイルごとの検出事項・適用処理・警告内容を確認できます。

第4章 設定ファイル (config.yaml)

config.yaml では、数値パラメータ等をハードコードせず一元管理しています。テキストエディタで開いて編集できます。主な項目は次のとおりです。

セクション	主な項目	内容
upload	max_total_mb、 safety_margin_ratio	1回のアップロード合計上限（既定200MB）と分割時の安全マージン（既定90%）
evidence_number	symbols、digits	証拠番号の符号（甲・乙・丙）と桁数
filename	max_length、 warning_length、 forbidden_chars	ファイル名の上限文字数（既定100）・警告閾値（既定50）・禁止文字
evidence_stamp	font_size_pt、 margin_top_mm、 margin_right_mm、style	証拠番号スタンプの文字サイズ・余白・見た目（既定は赤字）
pdf	a4_mm、a3_mm、 size_tolerance_mm	用紙寸法と判定の許容誤差
pii_detection	patterns	個人情報パターン検出の正規表現（追加・調整可能）
logging	log_dir、level	デバッグ用詳細ログの出力先とレベル

各項目には、根拠とした一次資料（操作マニュアルの版数、準備の手引の版数等）がコメントとして記載されています。数値の意味や根拠を確認したい場合は、config.yaml 内のコメントを直接ご参照ください。

第5章 ソースコードとライセンス

本ツールはPythonで開発されており、`source/` フォルダにソースコード一式を同梱しています。オープンソースソフトウェアとして、**MIT License**の下で公開します。改変・再配布・商用利用を含め自由にご利用いただけますが、著作権表示とライセンス条文（`LICENSE` ファイル）の保持が条件となります。詳細な条文は同梱の `LICENSE` ファイルをご確認ください。

なお、本マニュアルが参照する制約（mintsの操作マニュアル・Q&A・準備の手引）は、いずれも取得時点の版に基づくものであり、mints側の仕様変更に自動追従するものではありません。制約に疑義が生じた場合は、まず一次資料の現物、それでも解決しない場合はmints画面内の最新情報をご確認ください。

第6章 免責事項

- 本ツールは、mintsの本番環境への接続テストは行っておりません。要件定義書に記載された各種エラー条件を再現したサンプルファイルによる検証にとどまります。
- 本ツールによる検出・警告は、一次資料の精査に基づく推測を含みます。最終的な提出の可否は、必ずmints画面上での実際の挙動によってご確認ください。
- 本ツールの利用により生じた損害について、作成者は一切の責任を負いません（LICENSE記載のとおり、現状有姿で提供されます）。

更新履歴

バージョン	日付	内容
Ver.100	2026年7月21日	初版公開。VBAアセット（vba-assets.net）にて、実行ファイル・設定ファイル・本マニュアル・ソースコードをMIT Licenseの下でオープンソース公開。